

「田舎で儲かる農業を目指して」

末浪 卓也（40歳）
（大洲市河辺町）

新規就農



1 就農の動機・理由

県外でいろいろな職を経験するうちに体ひとつでやれると思った農業に自ら挑戦したいという気持ちが湧いてきた。

愛媛に戻って就農候補地を探している中、亡祖父母のいた河辺地区では過疎が深刻化し、耕作放棄地も増えている現状を知り、地域の農業を守りたいという思いから河辺地区での就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成30年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	畑 37 a	畑 110 a	畑 130 a
経営内容	きゅうり 5 a カボチャ 32 a キャベツ 30 a	きゅうり 20a カボチャ 80 a インゲン 10 a	きゅうり 30a カボチャ 50 a インゲン 10 a アスパラ 40a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟

○主要農業機械

軽トラック 1台
トラクター 1台
動力噴霧機 1台
管理機 2台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県宇和島市
職歴 海上自衛隊
自動車部品製造会社等
就農研修歴 なし
就農年月 平成30年2月

(2) 就農時の思い

田舎でも儲かる農家になれるんだという強い気持ちがあり、就農したことに対してまったく不安はなかった。

周りの農家に相談すると河辺で農業で生きていくにはきゅうりかトマトだと言われ、トマトは施設が必要なので、すぐに始められる夏秋きゅうりをメインに就農することを決意した。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

地域の先輩農家から、栽培技術について学んだ。

また、農協の部会や青壮年部での講習会・農業大学校や公庫が実施するセミナー等も活用して技術の習得に励んだ。

(2) 資金の準備

自己資金はほぼなかったが、公庫や市、農協に相談して、「青年等就農資金」や「農業次世代人材投資事業（経営開始型）」、また、「JA 農業おまかせ

資金」も活用し、機械資材費や運転資金等を確保した。

(3) 農地・住宅の確保

市や農協に当地域の農地情報はなかったのですが、地域の農家から空き農地の情報を聞き取り、なんとか農地を確保した。住宅についても地域の農家から教えてもらい、こちらは比較的すぐに見つかった。

(4) その他苦労したこと

農地の確保が特に苦労した。空き農地は比較的簡単に見つけることができたが、農地の所有者を見つけることに加え、実際に連絡が取れ、賃借まで行く人は少なく、想像以上に大変だった。

5 農業経営の特徴

古い考えに捉われず、頻繁に新しい情報を取り入れるようにしている。主に、YouTube や県の内外を問わず研究機関等の研究データを閲覧し情報を得ている。不明な点は電話で直接聞き、いいと思った情報はとりあえず実践し、良かったものはとり入れ、良くなかったものはすぐやめるようにしている。

6 これからの夢

売上1千万円超を目指したい。そのためには品目にこだわらず何にでも挑戦したい。

また、河辺地区の農業人口を増やしたい。そのため、市と連携して河辺地区を盛り上げていきたいと考えている。

7 成功したキーポイント

仕事の時間を決めずに、必要な時期に

必要な作業を確実にやったこと。

経費に関してどれだけ削れるか、より効率のいい方法はどうかを考えてやったこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は、自分がやった分だけ返ってくる業種です。収入かそれ以外か何を目指にするかが大事だと思います。

収入を目標にするなら体は楽ではないですが、心の楽しさがあります。こういうことを分かったうえでやる仕事だと思います。

○ 指導機関からのひとこと

末浪さんは、意欲的な姿勢と根気強い性格で、農業知識ゼロの状態でも1本で荒れた農地を整備し、今ではきゅうりの収穫量は地域でトップレベルとなっています。

今後も農業及び河辺地区の発展に寄与する人材になれることを期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室
大洲農業指導班
電話番号 0893-24-4125



きゅうりの収穫作業